

中小企業地域資源
活用促進法に基づく

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

奈良県大和高田市
が応援するふるさと名物

『繊維関連製品』





奈良県大和高田市

地域の プロフィール

◆大和高田市の概況

大和高田市は、奈良県北西部に位置する繊維産業の盛んなまちです。全市域にわたり、ほぼ平坦な地形です。1948年（昭和23年）1月1日、奈良市に次いで、県下二番目の市として市制を施行し、2018年（平成30年）1月1日に市制施行70周年を迎えました。

中和・葛城地域の中核都市であり、大阪との文化、経済的な関わりが深く、南北近鉄線、JR線、西名阪自動車道、南阪奈道路を利用すれば、30分あまりでアクセスできる位置にあります。

市制施行の年に植樹された高田川の千本桜は、樹齢60年を超え、毎年春には、高田川の両岸南北2.5kmにわたって美しい桜の花が咲き誇り、桜の名所として知られています。



高田千本桜

大和高田市における繊維産業の歴史①

◆江戸時代から続く繊維技術産業

大和盆地は雨が少なく、水不足に悩まされ続けていました。

そのため、雨が少なくても育つ綿が盛んに栽培され、大和高田市は繰り綿の集散地として栄えました。

「大和の繰り綿は和洲一の売り物」といわれ、江戸東北にまで商われたといえます。

明治29年（1896年）に、近代的設備の『大和紡績会社』が地元資本で創られ、日本の近代化に貢献しました。メリヤスの製造をいち早く取り入れたのもこの地域でした。

原材料の繰り綿から大和絁へと商品化が進み明治以降メリヤス編みへと発展した技術は、現在の繊維関連産業に継承されています。



大和高田市における繊維産業の歴史②

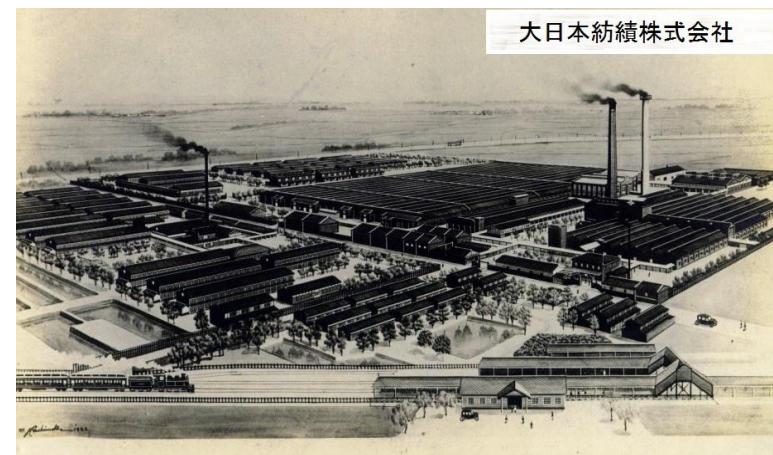
その後、大和紡績会社は、摂津紡績会社、大日本紡績株式会社へと名前が変わり、日本三大紡績工場のひとつとなり、市民から「二チボー」という名前で親しまれました。

鉄道が大阪～高田間を通り、大正期の大和高田市は奈良県で一番の「ものづくりの町」となったのです。

大日本紡績株式会社が発展して、繊維加工・染色などの関連工業も発達しました。

現在も、大和高田商工会議所が中心となり大和木綿の栽培を復活させ、繊維関連企業とともに「奈良さくらコットン」事業を展開しています。

体験学習や工場見学を実施し、市内外の若い世代に歴史ある繊維関連製品の継承に努めています。



1

主な地域資源

- ◆靴下（パンティーストッキング、タイツ含む）
- ◆ニット
- ◆衣料縫製品

明治43年頃、農家の副業として輸入機による生産が始まり、今では奈良県の靴下生産量は国内シェアで全国1位を占めています。

その中で、大和高田市内にはたくさんの靴下工場等があり、靴下類（靴下・パンティーストッキング・タイツを含む）では生産日本一を誇っています。

ニットは経糸緯糸で形成される織物と違い、糸で作ったループに別のループを順次通して生地にするため伸縮性に富み、ループの隙間が保温性や吸水性を生み出します。

大和高田市には①丸編み・②横編み・③カットソウと3様の技術をもつ企業が切磋琢磨し合ってそれぞれの編み生地の特徴をうまく生かした高機能の個性ある製品開発を行っています。また、OEM（他社ブランド製品の製造）としても日本の繊維産業を支えています。

また、発達した繊維加工技術によるパンティーストッキングやタイツ・衣料縫製品は、ファッション性・機能性・環境性など、さまざまな条件に優れたものが求められる現代で、常に時代を先取りしたモノづくりに挑戦しています。

注) ①丸編み：筒状の窯で編まれ靴下や腹巻などに適しています。肌着にすると生地が輪になっているため脇縫いのない快適な製品が生まれます。
②横編み：横列に並べた針を糸が往復して生地を編みます。セーターなどを一体化して編み上げる無縫製編みもとりにれています。
③カットソウ：ニット生地を開いて裁断・縫製加工します。ニット生地は伸縮性があるため、優れた加工技術が必要です。

2

ふるさと名物

◆繊維関連製品

大和高田市には、さまざまな繊維関連製品があります。
大日本紡績株式会社の登場により発展した原料・染色・編立・縫製・刺繍・仕上げ・装飾加工などの技術は、やがてパンティーストッキングやタイツなどのさまざまな繊維関連製品を生み出しました。

繊維産業は時代とともに変化を遂げましたが、地域に育ったメリヤスや靴下などの繊維関連製品は、現在も日本のトップクラスの技術・応用力を誇っています。

◆ふるさと名物の一例



表側と裏側の両面がシルクの2層になっており熱を逃がしにくい重ね履き靴下や、吸水速乾・抗菌防臭・運動効率アップの疲れにくい靴下



大和高田産の綿を使用したニット製品



きめ細かい編地で滑らかな履き心地のパンティーストッキング

1

独自の支援策

◆産業力強化による元気とにぎわいのまちづくり

(1) 経営の近代化の促進

中小企業等の経営の近代化や経営基盤の強化を図るため、奈良県や大和高田商工会議所等と連携し、経営指導・技術開発に努めるとともに、経営診断や各種セミナー等の開催による人材育成を支援しています。

また、大和高田市内に新たに商工業施設を設置する事業者に対し、奨励金を交付しています。

(2) 集団化・共同化の促進

各種の制度融資等の活用による中小企業の集団化や共同化を促進し、経営・設備の近代化や新技術の導入等を図り、社会情勢の変化に対応した経営基盤の安定と強化に努めています。

(3) 労働力の確保

公共職業安定所や関係機関と連携した雇用対策の充実に努めています。また、施設設置奨励金に該当する事業者に対し、大和高田市内在住者を正規従業員として雇用した場合に奨励金を交付しています。

1

独自の支援策

(4) 商工連携イベント事業

商工業者や大和高田商工会議所等と連携し、イベント等で「繊維関連製品」のPRと販売に努めています。また、市内外からの集客増を図り、大和高田市の魅力の向上と地域経済の活性化に繋げる取り組みを実施しています。

2

広報

- ◆大和高田市や大和高田商工会議所のホームページでの情報発信を実施しています。また、観光イベントや市内外での各種イベントにおいても積極的にPRを行っています。



市長からのメッセージ

大和高田市は、奈良盆地の南西部に位置し、市の西片に金剛葛城山系が望まれます。

古くは難波から飛鳥を結ぶ日本最古の官道であり、日本遺産でもある「竹内街道・横大路」の横大路が東西を通り、交通の要衝として発展し、人と物で賑わってきました。

江戸時代には、降雨水量が少ない大和地域で水が少なくても育つ綿の栽培が盛んとなり、「大和木綿」の集散地として知られ「商工業のまち・大和高田」への歩みがこの時代から始まるようになりました。

さらに明治以降になると、当時最新鋭の設備を備えた「大和紡績」が創設され、日本の近代化に貢献しました。その製造技術等をいち早く取り入れることが出来たのです。

大和高田市は、これら先人から受け継がれた伝統ある日本のトップクラスの高度な技術力と応用力により製造される「繊維関連製品」をふるさと名物として応援することを宣言します。



大和高田市長 吉田 誠克